

平成 17 年度 身近な野生生物の観察事業について

ExTEND 2005 の中で、「野生生物の観察」は一番目の柱として位置付けられており、今年度から生活に身近な野生生物の観察事業を開始することとした。

本事業では、地域レベルでの既存の活動を活用、支援し、全国的に展開し、各地域での継続活動の継続性を確保するためのものである。子ども達や一般市民の方々に、生態系に対する関心・興味をもって頂くことを主な目的とする（参考 1）。

今年度は、事業初年度であるため、試行的に事業を開始する。既存のこどもエコクラブの体制を活用することとし、事務局である日本環境協会の推薦によるクラブの中から 10 クラブに協力して頂くこととした（参考 2）。

野生生物の観察の専門家及び、エコクラブの代表指導者で野生生物の観察事業準備会を構成し、本事業で今年何ができるかの検討を行った（参考 3、4）。

平成 17 年度 ExTEND2005 における身近な野生生物の観察事業について (事業の目的)

環境省環境安全課

内分泌かく乱化学物質問題のみならず生態系を視野においた
化学物質問題全般の原点である野生生物における異変把握のための
身近な野生生物の継続的観察

1. ExTEND2005 における「身近な野生生物の観察」事業の位置づけ

私たちの身の回りには、多様な生物種が生息していますが、一方、私たちの人間活動によって様々な環境リスクが発生しています。その一つに化学物質による環境リスクが挙げられます。

化学物質による環境リスクは人への影響だけでなく、生態系への影響も含まれています。これからは、人への影響だけでなく生態系への影響についても子供たちや一般市民の方々に知ってもらう必要があります。

そのためにはまず、身近な野生生物をじっくりと観察することが必要となります。そこから、そもそも生物には多様性があるということ、そして生物個体は複雑な生態系のバランスの中で生きていることを体得してもらいたいということで、この事業はスタートしました。体得してもらいたいポイントは下記の 2 点です。

- ・生物にはバリエーションがあり、多様で複雑な生態系の中で生物は生きていること
- ・生物におけるバリエーションの要因としては、様々な因子が考えられること(化学物質の影響も含めて)

この 2 点を体得し、きちんとした生物への理解をもった上で、化学物質が生態系に与える影響を考えることができる人々が増えることが、この事業の最終的な目的となります。

2. 調査の目的

- ・ 1 番目に子ども達や一般市民の方々に、生態系に対する関心・興味をもって頂く。
- ・ 2 番目にデータ収集は可能な範囲でデータ収集をすること。

3. 学習の目標

- ・ 生態系に関する関心・興味を養う
- ・ 生態系の多様性を学ぶ
- ・ 異変の把握のためには継続調査、広域調査が必要であることを学ぶ

4. 調査内容

(1) 参加グループについて

現在、野生生物の観察活動等を行っているグループ(学校における自然活動・地域住民における観察活動等)を対象としています。

本年度は、活動実績のあるエコクラブの内、業務に参加して頂ける 10 グループを対象としていますが(パイロットスタディ的な位置づけ)、次年度以降は、参加グループを広く募集し、調査に協力していただく予定です。

(2) 調査方法について

調査方法・回数・時期等については、各グループの活動に沿った形で実施していただくため、完全な統一はいたしません。8月～11月の間に3回程度の調査を実施して頂く予定です。

(3) 調査対象・調査項目について

調査対象については、皆様の意見を集約した上で調査可能な対象を決定していきたいと思っております。

調査項目については、専門家でなければ確認できない項目を設定すると、データの精度にばらつきが起るため、出来るだけ判別し易い項目で行ってきたいと思っております。

5. 専門家によるサポートについて

調査シートを基に観察を実施していく中で、何か疑われたときには、専門家によるフィールド調査を実施します。その専門家による調査検討結果は、地域レベルでの活動ネットワーク参加者に還元されます。

調査シートについては今回で完成ではなく、本年度の調査結果、意見を基に適宜修正していく予定です。

参考

環境省ホームページ内に、この事業も含む、化学物質の内分泌かく乱作用に関する取り組み全体についての方針を記載していますので、ご参照下さい。

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について-

ExTEND 2005-」 <http://www.env.go.jp/chemi/end/extend2005/index.html>

(関連の記述は P.13～17、28、32 に記載しています)

平成17年度 野生生物の観察事業準備会

< 指導委員 >

青山 博昭	残留農薬研究所毒性部副部長兼生殖毒性研究室長
井口 泰泉	自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター教授
斉藤 秀生	自然環境研究センター
戸田 光彦	自然環境研究センター
花里 孝幸	信州大学山地水環境教育研究センター
福井 行雄	広島大学大学院生物圏科学研究科
安間 繁樹	農学博士

< 調査委員 >

安部 慶太郎	野島自然観察探見隊
泉山 博直	いわいずみこどもエコクラブ
井上 修	善通寺こどもエコクラブ筆岡
大北 祐治	盈進中学校環境研究部
大島 由臣	葉鹿エコクラブ
小迎 寿一郎	甲東中学校エコクラブ
佐々木 誠治	こどもエコクラブくしろ
城田 博巳	元総社エコクラブ
西澤 真樹子	近木っ子探検隊
松井 恵子	大岡なかよしクラブ

クラブ紹介

クラブ名	クラブ所在地		グループの種類	代表 サポーター名	サポーター	活動内容
いわいずみこども エコクラブ	岩手県	岩泉町	岩泉小学校の なかまたち	泉山 博直		緑の募金 自然観察会、星空観察会、ほたる観察会 たんぼの生き物調べ 樹名盤設置 葉箱作り 100万人のキャンドルナイト
盈進中学校環境 研究部	広島県	福山市	学校のクラブ	大北 祐治	中学校教諭	芦田川の水生物調査と保護 ・水生昆虫・水質調査・スイゲンゼニタナゴ の調査と保護 千塚池の生物・水質・オニバスの成長記録 広島県せとうち海援隊 ・指標生物調査(仙酔島)
大岡なかよしクラ ブ	静岡県	沼津市	近所のお友達	松井 恵子	町内会のボラン ティア	黄瀬川・狩野川の生きもの調査 オオバクサ除去 毎年「フェスタ・コスタ・テル・ゴミン千本浜」 で成果を発表
鹿児島市立甲東 中学校エコクラブ	鹿児島 県	鹿児島市	学校のクラブ	小迎 寿一郎	中学校教諭	ケナフ・ワタの栽培・観察
近木っ子探検隊	大阪府	貝塚市	自治体の募集	西澤 真樹子	貝塚市立自然 遊学館職員	トンボ池の保全活動への協力 水の調査「WAQU2調査隊」への協力 近木川の生きもの調査 大阪府水辺の発表への調査
こどもエコクラブく しろ	北海道	釧路市	地域の小中 学生	佐々木 誠治		トンボ、野鳥、植物の観察調査 外来種ウチダザリガニの駆除 釧路湿原自然再生における野生生物の生 息環境保全や修復、 生態系の健全さを取戻す再生事業参加活 動
善通寺こどもエコ クラブ筆岡	香川県	善通寺市	子ども会	井上 修	造園研究所職 員	川の生き物調査・水質調査 土壌の生物調査 植物・樹木調査(継続・同じ場所)
野鳥自然観察探 見隊	神奈川 県	横浜市	近所のお友達	安部慶太郎	横浜市市民活動 支援センター職員	全国水環境マップへの参加 野鳥海岸の生きもの調査 宮川の生きもの観察・バックテスト等 ホタルの観察会・クサフグの大産卵 野鳥観察、野外観察・自然観察・地域交流
葉鹿エコクラブ	栃木県	足利市	小学校を中心 に環境に興味 のある子ども の集り	大島 由臣	小学校教頭	1.彦谷川の水質検査(PH、COD、透明度)と EMIによる浄化活動 2.土曜日の「親子環境学習会」の企画・運 営 3.廃油回収と石けん作り
元総社エコクラブ 「わんぱく探検隊」	群馬県	前橋市	地区内小中 生有志によるク ラブ	城田 博巳		毎月のトレーニング、環境学習会への参加 牛池川の水質調査(水生生物、定点観測) 清掃クリーン作戦 サマーキャンプ、雪山交流会、スキー講習 リサイクルバザー

平成17年度 野生生物の観察事業準備会

日 時：平成17年7月29日（金）10時00分～16時00分

場 所：麻布台セミナーハウス

出席委員：（指導委員）井口泰泉、斉藤秀生、戸田光彦、花里孝幸、福井行雄
（観察委員）阿部慶太郎、井上修、大北祐治、大島由臣、小迎寿一郎、
西澤真樹子、松井恵子

オブザーバー：JANUS川嶋之雄、（株）ディ・コンプレックス小池田由紀、
石渡哲也（敬称略）

事務局：環境省 上家環境安全課長、入江係長、奥崎環境専門員
日本環境協会 堀河、伊藤、大場

請 負 先：（財）日本環境協会

〒106-0041 東京都港区麻布台1-11-9 プライム神谷町ビル2F

議 題：

1. 野生生物の観察事業主旨説明
今年度の位置付けについて
具体的な活動について
2. 各委員のこれまでの活動
指導委員
調査委員
3. 調査シートについて
4. 調査実施の注意点について
5. その他

議事要旨：

1. 今年度は10クラブ限定で、試行的に行う。
2. 具体的な活動は各クラブのこれまでの活動の延長線上で行う。
3. 各クラブの構成や活動は様々であること、データ収集が主たる目的ではないことから、今年度は詳細を画一的に規定するような調査シートは作成しないこととした。
4. 今年度、各クラブからは統一フォーマットによるフェイスシート（団体名、参加者名等）と今年の観察活動のレポートを提出してもらい、事務局で報告書にまとめることとした。
5. 子どもたちの安全確保上の注意点及び観察上の注意点に関しては、それぞれの経験を紹介し合った上で、意見交換を行った。
6. 今後直ちに調査実施前に各クラブの調査計画書を準備会のメンバーで共有し、随時、意見交換を行うこととした。

今後のスケジュール

平成17年

- (7月8日～28日 各委員への意見伺い)
(7月29日 観察準備会)
8月8日まで クラブから調査計画書を提出(Eメール、FAXなど)
(提出後1週間ぐらい) 各調査計画書についての助言及び意見交換
8月中旬 レポートフェイスシートを事務局より送付
8月下旬～11月末 調査実施
随時意見交換

平成18年

- 1月6日 各クラブからレポート提出
1月下旬 こどもエコクラブ全国フェスティバルへ本事業から代表として参加するクラブを決定
3月25・26日 こどもエコクラブ全国フェスティバル特設ブースにて報告
3月下旬(予定) 平成17年度調査報告書を事務局とりまとめ

(参考) こどもエコクラブ全国フェスティバル

全国の都道府県のこどもエコクラブの代表が一堂に会し、交流を深めるとともに、各地で展開されている活動の紹介を通じ、こどもエコクラブ事業の拡大を図るため、毎年、こどもエコクラブの1年間の活動の締めくくりとなる全国フェスティバルが開催されている。